

# サーフタウン構想に取り組む中で、課題と解決方法は

観光客の増加による交通渋滞や環境美化などの課題が挙げられるが、必要に応じ対応する



内藤喜久枝  
自由民主党田原市議団



## サーフタウン構想の取組状況と今後の方向性について

**問** 令和2年度の取り組みの状況や現在の進捗状況は。  
**答** 弥八島海浜公園の土地利用事業では11月に事業者を決め、住宅開発事業化検討調査も8月に完了し、具体化に向けて調整している。

**問** 住宅開発事業化検討調査の目的と結果、市の認識を伺う。

**答** 弥八島地区内における住環境などの整備の可能性の検討材料とするための調査で、住宅地や観光商業地として市の都市計画に位置づけることで開発可能という結果だった。このほか、市独自の調査によるサーファーの居住意向調査では、半数以上が「土地を購入して住みたいと思う」との回答があり、需要はあると認識している。

**問** ボランティアである定住・移住サポーターの今年度の活動と、今後市はどのようにサポートしていくのか。

**答** 今年度は移住相談、秋頃から移住者向けのオンラインイベントで情報発信をしていただいた。今後は、リモートでの相談活動や体験型移住イベントが円滑に進むようにサポートしていきたい。

**問** サーフタウン構想に取り組む中で、課題とその解決方法は。

**答** 観光客の増加で、交通渋滞・交通事故・防犯・環境美化などの課題が挙げられるため、道路や駐車場の整備、地域やサーフィン団体と連携した防犯活動や海岸清掃などで集落環境の保全に努めた。

**問** 地域振興の起爆剤として、どのような効果を期待しているのか。

**答** 地域住民の利便性向上や余暇の楽しみが増えることに加え、サーファー、サイクリスト、温泉利用者などの観光客の増加により、経済効果や地域の活性化につながることを期待している。

**問** 市長は「2026年アジア大会のサーフィン競技を田原市へ」と言われたが、開催に向けての現状は。

**答** 競技会場として田原市が仮決定されている。

**問** アジア大会は田原市のPRのチャンスである。今後どのように取り組んでいくのか。

**答** 大会成功が構想の一層の推進につながるものと考え、今後も構想に掲げる施策や事業をしっかりと進めていく。

**問**

オンライン化の課題と、今後の対応は。  
課題として、利用者の利便性と行政事務の効率化・セキュリティ確保などの両立があり、効果と費用が最適化されるように対応していく。また、スマートフォンなどを使い慣れていない方や所持していない方に対しては、使い方や手続方法をわかりやすく説明するとともに、マイナンバーカードを活用した本人確認などにより、少しでも利便性が向上されるように検討していく。

**問**

本市の行政手続きオンライン化拡大の展望は。  
国の進めるオンライン化に適切に対応するほか、昨年からの取り組みできた押印廃止に続き文書主義や対面主義の見直しなど、オンライン化に必要な事務の見直しを進め、市民の利便性の向上を図っていく。

